



須藤彌志正さん

一関市北上川治水地権者会会長

profile すとう・やしまさ
昭和19年生まれ。72歳。父・彌左衛門のあとを継ぎ、北上川治水地権者会に加入。同会副会長を経て、平成27年、会長に就任。地域の農家の生活を守るために精力的に活動する

Voice

事業を後押しする住民の声

農地を犠牲にしてもまちを守りたい

地権者の一人だった父は当初、遊水地の計画に反対していました。理由は地域経済を守るため。当初は周囲堤だけの築堤予定だったので、中小洪水が起これば広大な農地が犠牲になります。協議を進める中で、小堤によって土地が保護されるようになったことから、事業に協力することになりました。

大規模な洪水になれば、私たちの農地や育てた作物は犠牲になってしまいます。それは市街地に住む人や財産を守るために、私たちが覚悟しなければならないことだと思っています。

事業に協力するのは、遊水地のためというよりも、一関のまちを守るためという思いが強いです。

佐藤晁僖さん

磐井川堤防改修促進協議会会長／一関商工会議所会頭



profile さとう・こうき
昭和16年生まれ。76歳。昨年から同協議会の会長を務める。磐井川堤防の早期改修のほか、水害時の安全確保のため、JR東北本線磐井川橋梁の架け替えなどを訴える

頑丈な堤防で市民の安全を確保して

私もカスリン・アイオン台風の水害を経験しました。あの頃は国全体が貧しく、復興のスピードも遅かった。市街地のがれきがなくなるまで、何年もかかったのを覚えています。

磐井川堤防は、カスリン・アイオン台風後の昭和25年に作られた古いもの。「かみそり堤」と呼ばれるほど堤防断面が小さい構造です。高さや幅も、現在の想定している洪水には不足しています。東日本大震災では、無数の亀裂が入りました。最近ではゲリラ豪雨など、昔では想像もできなかったような災害が増えています。災害はいつ来るか分からない。早く頑丈な堤防を作ってもらい、市民の安全を確保してほしいです。



対策²

CHAPTER 2 [Project]

洪水を防ぐ。水害を減らす。

ダムと遊水地で洪水を防ぐ

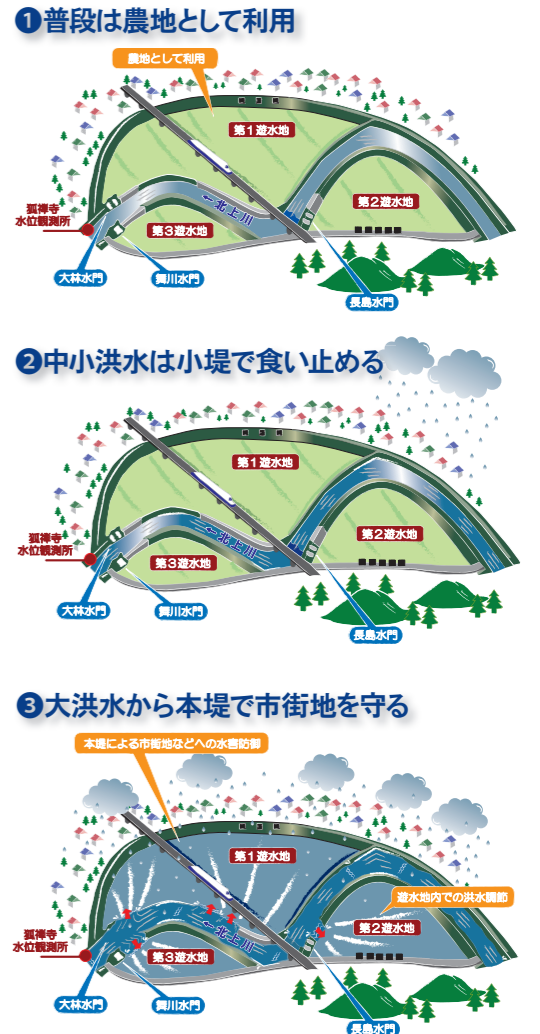
カスリン・アイオン台風による未曾有の被害を受け、国は北上川の治水を根本から見直した。昭和26年には「北上川特定地域総合開発計画」を策定。四十四田、御所、田瀬、湯田、石淵（現在の胆沢）の5大ダムを整備した。

さらに、47年には「一関遊水地事業」に着手した。遊水地とは、洪水時に河川の水を一時的にあふれさせておく土地のこと。平成18年には、150年に一度の確率の洪水にも耐えられるように計画規模を拡大した。総事業費は2700億円。平成30年代の完成を目指す一大プロジェクトだ。

【北上川と主な支川】



【一関遊水地の仕組み】



遊水地の仕組み

一関遊水地は、市街地を洪水から守る本堤（27・8キロ）と中小洪水から農地を守る小堤（17・9キロ）からなり、第1遊水地（820畝）、第2遊水地（470畝）、第3遊水地（160畝）の3つの遊水地で構成される。

遊水地の中は、普段は農地として利用されている。小規模な洪水のときは、小堤で水が田畑に入るのを防ぐ。大規模な洪水のときは、遊水地内で水量を調節し、本堤で市街地を守る仕組みになっている。

磐井川堤防の改修も必要に

磐井川堤防は昭和25年に築かれ、翌26年には、復興を願って2千本の桜と梅が植樹された。市民の憩いの場に

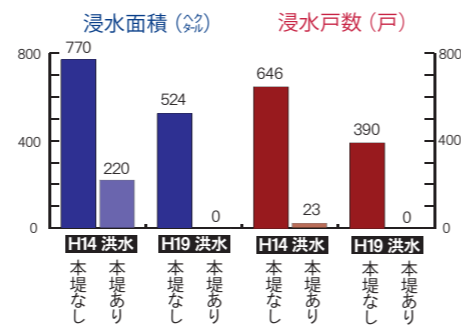
なっていた磐井川堤防だが、想定される洪水に対しては高さや幅が不足していた。また、堤防内部に伸びた桜の木が腐食し、内部に空洞があった。国は49年から堤防改修事業を開始。対象の左右岸6地区のうち、青葉地区の工事は本年3月に完成した。今後は対岸の田村地区の工事が予定されている。全地区の工事は平成30年代の見込み。堤防の桜並木も工事に伴い伐採されたが、改修した堤防の側帯（*1）に順次、植樹が行われる予定だ。

*1 側帯…堤防の裏側(宅地側)に土砂を積み上げた部分。堤防内部に桜の根が入り込まないように対策を施してある

Point 市街地への浸水防ぐ遊水地の効果

一関遊水地の本堤は、平成19年におおむね完成。14年と19年の洪水では、市街地への浸水被害を大幅に減少させたと考えられている。

- ① 14年7月洪水
浸水面積…550畝減、浸水戸数…623戸減
- ② 19年9月洪水
浸水面積が524畝減、浸水戸数…390戸減



*本堤なしの数値は推定値



国土交通省 東北地方整備局
岩手河川国道事務所一関出張所

斎藤巧 所長

profile さいとう・たくみ
昭和40年生まれ。52歳。岩手・宮城内陸地震発災時は、北上川下流河川事務所での復旧の現場監理を担当。東日本大震災では仙台海川国道事務所での復旧事業に携わる。本年4月、現職に着任。当地域の北上川治水のかじ取りを担う

一関遊水地は地域の協力があってこそ成立する

一関遊水地は、5大ダムと並ぶ北上川の水害対策の柱。小堤では10年に一度の確率の洪水を、本堤では150年に一度の確率の洪水を想定して計画されています。

遊水地の機能は①洪水を調節②市街地への水害を防ぐ③遊水地内の土地を利用すること。地域の理解と協力なくしては成り立たない事業です。皆さんの「地域を守りたい」という思いを事業にしっかり反映させたいです。

現在は小堤に関連する水門などを建設中。同時に、磐井川堤防の改修や完成した施設の維持管理なども行っています。全ての事業の完成は平成30年代を予定しています。

現在小堤に関連する水門などを建設中。同時に、磐井川堤防の改修や完成した施設の維持管理なども行っています。全ての事業の完成は平成30年代を予定しています。